

楽しく学ぼう英語教室

小野町では、国際化社会に対応し、外国人英語指導助手を講師として、子ども達に国際理解並びに英語に対して興味を持たせ、学力向上及び人材育成、教育の推進を図ることを目的として、『外国人指導助手派遣事業』を実施しています。その一環として、小野わかば幼稚園でも英語教室が開かれました。

キャリー先生の『HELLO』の声に、子ども達も元気に『HELLO』とごあいさつ。次は『MY NAME IS〜』と自己紹介の練習です。口の開け方や発音に気をつけながら繰り返すうちに、子ども達の口からも少しずつなめらかな英語が聞かれてくるようになりました。「♪LONDON BRIDGE」では身体表現やゲームを楽しみ、教室が終わってからも、英語で歌いながら繰り返し楽しむ姿も見られました。

テレビや英語教材などで日ごろから耳にし、親しんでいる英語ですが、ローマ字で書かれた名札を胸に付け、実際にコミュニケーションをとりながらの教室は、一段と心に響き、身体で感じ取る事が出来たようです。



英語の歌も覚えたよ

夏井おおすぎ保育園 はじめこの米づくり



おっー ふっくらおいしそう

夏井おおすぎ保育園ではじめての試みとして米作りに挑戦しました。

自分で育てるという気持ちを持たせるため、一人一人のバケツとペットボトルを用意し、バケツには苗になったものを、ペットボトルには種籾から自分たちで育てた苗を植えました。

はじめは手や服に泥がつき嫌がっていた子どもたちも行ううち、泥の中に手を入れ「うわーヌルヌルする。」「水があっただかい。」と、その感触を楽しむようになりました。

その後、苗はすくすくと伸びましたが、その過程にはちょっとした苦労もありました。バケツやペットボトルの水は容量が少ないため、真夏の暑さですぐ温まってしまいます。そのため度々水の入れ替えが必要でした。

子どもたちも小さなじょうろで水を持ち出し手伝って

くれ、なんとか夏を乗り切りました。その間中干しなどの加減もあり「うまく育てられるかな？」と心配もしました。

そして実りの秋、収穫の時期を迎えました。稲を刈り取る時は恐る恐るの手つきだった子どもたちも、自分の稲の重みに大満足した様子でした。脱穀は割り箸に穂をはさみ引き抜くという方法で行いましたが、パラパラと気持ちよく落ちる米に大喜びで、飽きずに行うことができました。次に籾摺りですが、すり鉢に米を入れ野球ボールを転がして籾はずしました。最後の精米は、びんに入れた米を棒で突き糠をとりました。いよいよ試食です。「おにぎりパーティー」と称し、米そのものの味を味わうため、はじめはなにもつけず一人一人自分で握ったおにぎりをたべましたが、どの子の顔も満足気でおいしい顔で一杯になりました。

手探り状態で行った米づくりでしたが、この笑顔に職員一同「取り組んでみて良かった！」の思いで一杯になりました。



こんなに大きく育ちました。